



お仁王様(人形立て)

松木内地区に伝わっている民俗信仰に「人形立て」と呼ばれている行事があります。集落の入口や小高い丘の上に立てられ、疫病や魔性の者=悪いよそ者の侵入を防ぎ撃退するためと考えられています。

この慣わしは、畑中、吉田、高屋の3集落で現在も引き継がれ、毎年春に面を除いて新調されます。右の

写真は畑中で、かつては地区のほとんどの集落で行われていたようです。



無火災祈願

地区の中心・松葉にある旭山農村公園の一角に、地元の願いが込められた金比羅神社が建立されています。「なぜここに金比羅さん？」と素朴な疑問が出てきませんか。

明治10年(1877年)5月、松葉集落から火の手が上がり、風にあおられ集落が焼き尽くされ、川を隔てた相内にも飛び火しました。その年再び松葉で火災が起こり、災難から集落を守ろうと、有志が四国の金比羅参りをし無火災を祈願。金比羅宮をかたどったお室とお礼を受け、以来毎年、無火災祈願の裸参りが行われています。深い雪の中、裸の若者たちが松木内川で身を清め、祈願します。



読み聞かせ教室

災い封じの祈りを込めて 祈願することが慣わしになって



この地域では子供たちに夢を大切にしてほしいと願っています。「夢に向かっ」は松木内小学校伝統の校訓で、これからも使い続けたいと菅原校長先生は言います。また、この地の祖に、地域を開墾し行動力で立身出世した戸沢氏がいます。稀代の出世を遂げたといわれるだけに、夢を大事にする伝統が続いているのかもしれない。

田んぼに描いた「ユメいっぱい」

上松木内小学校と統合してからもその伝統は引き継がれています。学校行事として、上松木内の小正月行事「紙風船上げ」に上げる紙風船作りを行っています。4つにグループ分けし3年生以上全員がデザインを作成。グループ内で描く作品を選び一緒に作ります。校長先生は「統合してからも大事にしている活動です」と、地元意識を高め、一生懸命に夢づくりに挑戦する子どもたちを称えていました。



読み聞かせ教室



北浦音頭の練習

立身の志は戸沢氏ゆずり?

伝統の教えは「夢に向かうこと」



ここは松木内の西根地区の水田です。「今年の田んぼアートは、ホタルの絵になったから」と、先生の説明の合間に、「黒い苗っこ取ってこれ！」と子供たちに忙しく指示をする声飛び交います。田んぼアートを提案した農家の指導のもと、子供たちの田植えが始まりました。6月9日、松木内小学校の全校田植えが行われました。田んぼに入り素足に感じる冷たい泥の感触にどの子供も満面の笑顔。カエルを見つけてはしゃぐ子供もいて、自然とふれあうのはかけがえのないことと実感しました。

「ユメいっぱい」



アート、農業、自然 楽しい課外授業「田んぼアート」

地域の輝き 磨く人たち おらほノ魂

松木内 上松木内 地域

特集 第3回

阿仁地方と境する大覚野峠を北にして松木内・上松木内地域は四方を山に囲まれ深山を源に流れる清流、松木内川が印象的です。戸沢にはマタギ文化が伝わりまた、戸沢氏が居城を構えた最初の場所ともいわれ恵まれた山の幸と水資源が潤いと文化を創造してきました。地元を誇る地域の人々の想いに感銘!



列車の走る音で地域は元気を...

平成元年に悲願の全線開通を果たした秋田内陸線。しかし、その後の沿線人口の減少や少子化、さらには先の東日本大震災の影響などで利用者の減少が続き、赤字額も改善されないままとなっています。

平成18年7月、存続に危機感を感じた上松木内地区住民たちが「秋田内陸縦貫鉄道を守る会（鈴木定平会長）」を立ち上げ、生活の安定と活性化を目指して、県・市への陳情、乗車運動とPR活動、駅の美化などを取り組んできました。部落会とも協働、地区ぐるみでの活動です。

鈴木会長は「存廃議論を通して内陸線への関心が深まり、サポーターも増えている。列車の走る音で地域の人たちは元気をもらっている」と感謝とともに、「内陸線は新幹線とつながっている強みがある。まずは乗ってもらおうことが大事」と力説します。沿線の少子化などによる利用客減少を懸念し、観光客の誘客やさらなる地元の乗車促進に意気込みます。

上松木内駅は田んぼと丘陵の中にポツンとあります。ホームに立つとホッとするような穏やかな気持ちに。ホームへの階段には花で飾られたアーチが設けられ、飾り付けは「守る会」の皆さんによるものです。「きれいな駅でお迎えしたい。少しでも乗車促進にお手伝いできたら」の気持ちが入められています。走る内陸線は地域の生活の一部です。



秋田内陸縦貫鉄道を守る会 会長 鈴木定平さん

真夏の星と真冬の雪を見に来てほしい

この春からお母さんから引き継いだ、松木内の大台野にある農家民宿「星雪館」の門脇富士美さん。この両親が農家民宿を始めたのは13年前のことです。

「何となく始まったというのが正直なところです。小さなキツカケが重なって...。泰山堂さん（県内最初の農家民宿）がやっているのを見て、面白そうだなと興味を持ちました。農業体験の修学旅行生を受け入れて、ふれあいがおもしろかったこともキツカケの一つ。母は『都会にいる息子が帰省したとき、こういうところ

があるよとゆつくりできるだろうから始めた』なんて言っています。始まりのエピソードからしてゆつたりしていますが、のんびりした時間を求めて来る人たちに人気の理由はこのあたりにありそうです。



星雪館からの眺め



農家民宿「星雪館」 門脇富士美さん

地域運営体の発足で新たな展開へ 自分たちで販売 直売所はコミュニティの場

松葉の中心国道105号十字路角にある直売所が地域運営体事業の一端で拡充され、毎週火曜と土曜に開いています。直売所は松木内産地直売の会（浅利吉博代表・会員21名）が運営しています。地域のお母さんたちの強い希望が叶った増設でした。その喜びとともに、集会所のように地域コミュニティが活発となり、出荷に訪れるお父さんたちの表情も明るく、皆さん笑顔でいっぱいです。

松葉の中心国道105号十字路角にある直売所が地域運営体事業の一端で拡充され、毎週火曜と土曜に開いています。直売所は松木内産地直売の会（浅利吉博代表・会員21名）が運営しています。地域のお母さんたちの強い希望が叶った増設でした。その喜びとともに、集会所のように地域コミュニティが活発となり、出荷に訪れるお父さんたちの表情も明るく、皆さん笑顔でいっぱいです。



わくわくマーケット

今年で8年目、上松木内にある紙風船館の横にある直売所&食堂が「わくわくマーケット」です。地域のお母さんたちで組織された紙風船会わくわくマーケット（中島勝子代表・会員15名）が運営しています。手作りのゆべしや焼き餅、米粉のお菓子の加工販売、旬の直売、そして天ぷらにも地場産の材料を使った食堂が好評です。お昼やドライブの休憩地として利用され、普段着の接客でお店は活気づいています。冠婚葬祭やお土産などで、地元のお客様から手作りのお菓子をご注文いただくことが多いそうです。また、常連のお客様と山菜やキノコを販売しており、地域と密着したお店づくりが人気の秘訣となっています。

松木内運営体会長 橋本左武郎さん

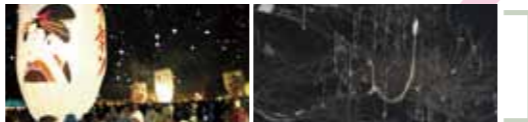
運営体をまとめる橋本さんは「ボランティア精神旺盛でありたい」といいます。「小さい集落が多く、まとまりが強く深いことが特徴。ただ昔ほどの元気がなくなってきました。ササラなどの発表の場がないから、秋に敬老会をやったその場でと、話し合っている。行政で手の届かないことをしたい」と、交流の強化を柱に取組んでいます。



今年度の主な事業 「産業振興推進大会/手づくりコンクール・講演会」「特産品開発」「地域文化の継承事業」「高齢者除雪・見守り支援」「内陸の乗車促進事業」「婚活事業」「地域安全・景観向上」



地域運営体について：仙北市では地域の身近な課題を地域住民が解決するなど、地域住民の自発的、自主的な活動を行う地域運営体の設立をすすめています。市の予算を、特産品づくりや起業などに有効活用することもできます。市民分権を進め、行政も含んだ、総合的な仙北市の質を上げることがねらいです。



課題山積にあって 地域に勢い

